

コア技術を活かして製品の環境負荷を管理 製品含有化学物質情報システム「COINServ-COSMOS」

沖電気グループの「環境ソリューション」の一つである

製品含有化学物質情報システム「COINServ-COSMOS(コインサーブ・コスモス)」。

そのベースは、沖電気が製品の環境負荷を抑制するために構築し運用している社内システムであり、自らもユーザーとしてその機能の充実を図っています。

社内システム「COSMOS」を構築

RoHS指令※に代表される法制化や規制強化などに伴い、製品に含有される化学物質の管理と有害な化学物質の排除は、企業が取り組むべき最優先課題の一つとなっています。

沖電気は、この課題の重要性を早くから認識し、1990年代後半からお取引先へのグリーン調達調査を開始、購入部品や材料に含まれる化学物質情報のデータベース化を進めました。そして1999年には、①設計段階での環境負荷物質の排除と抑制、②製品に関する情報開示と法令やお客様の要求事項への対応、を目的とした製品含有化学物質情報システム(社内名称「COSMOS」)を構築し、社内での運用を開始しました。

※ RoHS指令:

電気電子機器に含まれる特定有害物質使用制限指令。欧州連合(EU)加盟国が2006年7月1日に施行した有害物質規制で、電気電子機器への特定有害物質の含有を禁止するもの。

データベースと製品設計システムを融合

「COSMOS」は、「グリーン調達調査で得たデータをいかに活用するか」をテーマに、沖電気のコア技術の一つであるネットワーク技術を活かして化学物質情報データベースと製品設計システムを融合。製品の部品構成や設計段階での処理条件などから、社内での加工段階で加えられる物質も含めた“製品全体に含有される化学

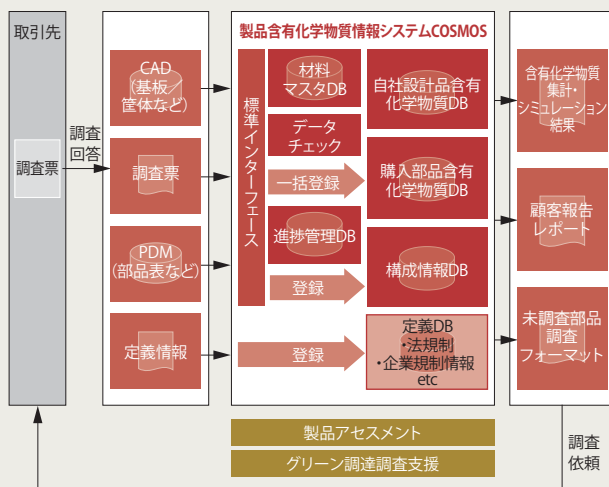
社員の声

「COINServ-COSMOS」商品企画担当 金井 善明



2006年度には、JGPSSIによる最新の調査フォーマットVersion3および「製品含有化学物質管理ガイドライン」に対応しました。システムをご利用いただくお客様には、グリーン調達をどう進めればよいか、といったご相談も含め、沖電気の環境活動における経験に基づいた業務支援も実施しています。

製品含有化学物質情報システム概要



物質量”を自動的に積算し、要求事項への適合性を検証できるようにしました。

さらに、これらの結果に基づき、お取引先への調査票やお客様への報告書を、グリーン調達調査共通化協議会(JGPSSI)による調査フォーマットなど、業界標準の様式で作成できるようにしました。

お客様の声にお応えして外部への販売を開始

こうした取り組みを社外の環境セミナーでご紹介したところ、「わが社でも使えないか」という多くのお問い合わせをいただき、2003年に「COINServ-COSMOS」として商品化。次々に実施される国内外の規制見直しなどに対応して自社製品の含有物質を適切に管理していくことは容易ではありませんが、「COINServ-COSMOS」は沖電気自身が日々更新・運用しているシステムに基づくことから、汎用性と柔軟性の点で高い評価をいただいています。

企業としての環境責任を着実に果たすために、また、お客様とともに製品の環境負荷低減を推進していくために、今後も「COINServ-COSMOS」の品質・機能向上を図っていきます。